

eスポーツ(ゲーム)が オリンピック競技になる日が近づいている？

「eスポーツ(e-sports)」とは、「エレクトロニック・スポーツ」の略で、広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称です。2000年頃からeスポーツという言葉が使われ始めました。Eスポーツは機敏な行動や、戦略性が問われる頭のスポーツなのです。

アジアオリンピック評議会とAlisportsは、中国・杭州にて開催予定の2022年アジア競技大会において、公式スポーツプログラムに“eスポーツ”を採用することを発表しています。2020年の東京オリンピックの次の2024年にパリで開催されることが確実視されている夏季オリンピックにおいて、「eスポーツ」が追加種目として選ばれる可能性が浮上っています。

eスポーツは1980年から2000年に生まれた「ミレニアル世代」を中心に人気を集めていると言われており、アメリカではアメフトやバスケのプロスポーツ業界を脅かす存在になっているといわれるほどの存在感を示すまでに至っています。eスポーツでは、必ずしもプレイヤーが肉体を鍛え上げて運動能力の限界に挑むというわけではありませんが、一つの競技に対して多くの人が一喜一憂して勝負の行方を固唾をもって見守る、という点に「プロスポーツ」としての魅力が備わっているといえます。

ゲームは日本のお家芸で、クールジャパンを代表するものですが、eスポーツの日本での普及はいまいち、eスポーツ先進国は米国、中国、韓国です。

世界のeスポーツゲーム人口は1億人以上、潜在ユーザーは数十億人になります。国の国境をこえ、年齢差、男女差もなく誰でも参加でき、コストがかからない・・・
PC/ゲーム機があれば楽しめ、体育館をつくらなくてもいい。頭の中のスポーツでスポーツの概念が変わります。

東京ヴェルディ1969フットボールクラブは2016年11月22日、9月に参入を発表していた「eスポーツ」チームの活動内容を発表した。新たにチームエンブレムを作り、ユニフォームはサッカー部門と同じものを採用。海外ではプロクラブがeスポーツに参入する例が増えているといい、海外チームとの交流も視野に入れて取り組んでいく。

eスポーツは、野球やサッカーなど一般のスポーツと同様に、競技としてコンピューターゲームの腕を競い合うもの。ヴェルディは、サッカーゲーム「FIFA」のプロチームを設立し、専属プレイヤーを公募していた。

肉体派であるプロサッカークラブが、競技としてコンピューターゲームの腕を競うインドアな「eスポーツ」に参入するのは不思議に思える。しかし、海外に目を向けると状況は違う。今年に入ってから欧州の「マンチェスターユナイテッドFC」「バレンシアCF」など、サッカーに限らず名門のプロスポーツチームが続々とeスポーツに参入している。

同クラブのeスポーツ参入には、こうした海外の先行事例が大きく影響したという。東京ヴェルディeSports部門担当の森太郎さんは「eスポーツ参入へのリサーチを進める中で、海外チームの事例が大きな動機付けになった。これはいけると。いずれは海外のeスポーツチームと交流ができれば」と話す。



eスポーツとは何か

■2003年1月に ESWC (Electronic Sports World Cup) がフランスで開催、

■11月には 中国国家体育総局がeスポーツを99番目の正式体育種目に指定しました。

■2011年11月 第1回eスポーツJAPAN CUP 開催

■2013年4月 Japan Competitive Gaming (JCG) 設立

■2014年1月「e-sports SQUARE AKIHABARA」開店10月

「League of Legends World Championship」ソウルワールドカップスタジアムで開催

■2015年4月 一般社団法人 日本eスポーツ協会 (JeSPA) 設立